

# Ja-Net

シャネット



第4号

Ja-NetはJapanese Networkの略です。  
「にほんご」を通して語学と読者の協力を結び  
発展にしたいと考えています。

スリーエーネットワーク  
〒101-0064 東京都千代田区千代田2-3-3 地蔵ビル  
TEL 03-2662-6767 FAX 03-2662-6764  
E-mail 3net@mlb.nic.or.jp

## 巻頭寄稿



やや旧聞に属するが、日本語教育の世界で「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」のだと盛んに言われたことがある。私の周囲にもこれを持ち出す教師がいて、戸惑い半分の違和感を覚えた記憶がある。というのは、その教師が相手に合わせて臨機応変に教えていたのなら納得できるのだが、当人はいたって内気な、教室ではもっぱら学生とよりも、黒板や教科書とにらめっこしていたという教師だったからである。おそらく彼の言う「教科書で教える」は、文法事項や語彙は課にとられず自由に導入してもよいという位の意味だったのだろう。だから、私などはその教師に、とにかく教科書の範囲を守り、きちんと「教科書を教えて」もらいたいと、当時は思ったものである。

奇を衒った警句というのは、このようにある種の胡散臭さが付き物であるが、翻って自分のやり方を思い起こしてみると、この警句の通りかなといった思いがしないでもない。私は初級レベルの文法や重要語句の導入に関しては、なるべく媒介語を使わないという意味での直接法を実践してきたのだが、意味を伝えるには、教師の身体を目一杯使って学習者の感覚に訴え、

さらに比喩や卑近な例を用いて彼らの連想やイメージを喚起する方法をとってきた。こうした過程では教科書の中の例文や会話、あるいは機械的な文型練習はあまり役に立たず、無視されることが多い。つまり「教科書を教えない」わけである。

実際、これまで二、三の日本語教科書作りに関与し、それを使って教えることもある人間が、実は教科書にはあまり忠実でないというのは、何か後ろめたいことでもあったが、これは必ずしも矛盾することではないと、最近思うようになった。そのきっかけは、言語学の新しい潮流となっている認知言語学の世界を垣間見たことである。この分野の二、三の類書を読んで得ただけの印象にすぎないが、そこにおける言語の把握は、直接法の手法であると私が固く信じて実践してきた意味の伝え方や理解のさせ方と、本質的にほとんど変わりがなかったのである。

詳しくは、例えば『認知文法論』（山梨正明著）などを読んで頂くとして、というよりも、これを読むと、直接法を誠実に実践してきた教師なら「何だ。自分たちが授業でやってきたことではないか」と感じる部分を多く発見するに違いない。一例だけ同

### 教科書、直接法、そして認知論

一橋大学教授

松岡 弘

書から引用すると、そこでは「メタファーリングによる意味の拡張」と銘打って、「おそう」が例として取り上げられ、「鷹が獲物を襲う 台風が本州を襲う 不況がその国を襲う」の順で＜具体的＞から＜抽象的＞に向かう意味の拡大が示されている。(私なら＜おそう＞には語源的に＜おす＞の意味があることをつけ加えたい。これによって例えば「亡き父親の後をおそって、社長の椅子についた」の「おそう」もイメージ的に理解しやすくなる。ただこうなると語源というよりも、こじつけのイメージといわれるかもしれないが・・・)

実は、現行の教科書の中でも優れたものは、作成者がそれを意識していたかどうかは別として、こうした認知的観点から文型や語彙が選択され、配列されている。だ

から、そのような教科書は、直接法で授業を行ってもあまり無理がない。教科書作りに携わってきた教師たちはその点で、自らを認知理論の先駆者・実践家として誇ってよいのである。

だが、この手法は教科書の細部には及ばない方がよい。なぜならば、イメージを膨らませ、つなぎ、楽しみ、遊ぶのは現場の教師の特権であり、個々の教師の技量に属するからである。それをすべて教科書に指示されては、教える楽しみは半減する。

私はこれからも、「教科書を教える」ことの大切さと「教科書で教える」ことの面白さを主張し続けたいと思うのである。



## イントネーションと言葉

外国語を勉強する事はいつも難しく、人によって難しい点は違います。私にとって、イントネーションと発音は特に難しいです。

私のイントネーションは日本人の友人にとって面白いです。私は信じられないという言葉が大好きでいつも「信じられない」と言っています。最近、日本人の友人のグループと一緒に飲みに行きました。バーで一人の友人は私に「その話は信じられないあいい!」と言いました。最初、私は何も気がつかないけれども、彼はもう一回同じことを言いました。それから「あの人は凄くうるさあいい」と言いました。皆は面白がってその晩はずっと同じイントネーションを使っていました。彼は私のイントネーションを面白がって真似していましたがありがたかったです。それまでイントネーションがそんなに悪いなんて知りませんでした。最近、私は気がついています、注意しないと、同じように間違ってしまう。

その上にイントネーションによって言葉の意味は違います。例えば、橋と箸です。イントネーションの違う点は外国人に聞きにくいです。イントネーション以外、日本人は会話の場合によって分かっているけれども、時々日本語を勉強する人には会話のテーマが分かりにくいです。文章の全体が分からないので勉強する人はキーワードを聞いてみます。もちろん、この方法が一番いいと思うけれども、時々、私は橋で食べて

箸を渡ったそうです。

外国人の友人にイントネーションと言葉の問題を相談したら、日本人の声はだいたい同じ高さのアクセントを保っているから、日本人のように話すには、退屈な声で話したほうがいいという意見でした。彼の提案は役に立たなかったけれども、日本人の先生から面白い方法を聞きました。それはクラスで言葉と表現を教える時、言葉を言いながら、手を使う方法です。イントネーションが上がれば手を上げて、イントネーションが下がれば手も下げます。イントネーションを見られることは本当にいいと思います。私の学校でも先生があの方法を使えばよかったのにと思いました。

## 恥ずかしい

ある日、私は日本人の友人と寿司屋さんへ食べに行きました。以前、友人が私に魚を注文してくれたけれども、この晩、私は自分で注文をするつもりでした。他の人の意識を感じたけど、甘いエビを注文して問題がありませんでした。私は色々なものを注文して自信が強くなりました。私はホタテが好きだから、注文をしたけど寿司屋さんに変な顔をして笑いました。私は混乱して友人を見たら彼もにこにこしました。「君はホタテが欲しいですね」と彼は私に聞いたので、小さい声で「そうです。問題は何か?」と答えました。「君はホトケ(仏)と言いました」と説明してくれました。私が「なるほど、言葉を間違えました」と言うと彼に「ホトケという意味がわかりますか?」と聞かれ、「いいえ」と答えました。「君は死亡者を注文した」という彼の説明を聞いて、私は静かになった。「ねえ。これから私に注文して下さい」と彼は言いました。

私は・・・。



(N・ジェームス / Ja-Net 編集員)

せっかく日本に留学しているのだから、ぜひ日本にいるからこそできる勉強を・・・こんな声が学生達からあがった。日本語学習を始めて十か月あまり、当語学院日本語科は一年コースなので、卒業間近のころである。それじゃというので計画したのが、アンケート調査。以前にもやったが、その時は質問事項も用紙も教師側で用意した。そこで今回は、準備の段階から最後まですべて学生に自分でやらせてみることにした。

作業はまず、アンケートの内容とそれに基づく質問事項をそれぞれで考えることから始まった。それがまとまると、自分でワープロやコンピューターを使って質問用紙を作成（ここまで約10時間）そしていよいよ街頭へ出て行く。今回は「見知らぬ人と話す」という目的を徹底するために、住み慣れた天理市を離れ、隣接する大和郡山市までマイクロバスで移動した。

アンケート調査といっても、目的はあくまで日本語学習。従って、いきなり質問をぶつけるのではなく、まず人に声を掛け、自分が何者であるか、アンケートの目的は何かを手短かに説明することも大切だ。現地に向かうバスの中ではさすがにピクニック気分にはなれないらしく、みんな緊張した様子。現地に着いて学生が散っていくと、担当教師3名は携帯無線器とビデオカメラを持って彼らを追う。最中、大型店舗の中で客をつかまえてやっていた学生が警備員にとがめられ、カメラ持参の我々も怪しまれる一幕も。



街頭インタビューで積極的に質問する留学生

翌日は、1日ばかりでそれぞれ結果をまとめ、最後にそれをみんなの前で発表（質疑応答あり）発表では、ほとんどの学生が調査結果をイラスト入りのグラフや表にまとめたりして、いろいろ工夫していた。

彼らの考えたアンケートテーマは、ストレス解消、国際結婚、バレンタインデー（時節柄）、自国に対する日本人の意識など様々で、いきなり英語で話しかけたら日本人がどう反応するかを調べた学生もいた。また、敬語に関する日本人の意識を調査しようとした学生は、普通の文を敬語で言い換えさせたとこ、けっこう答えられない日本人がいて驚いていた。

この一連の作業で教師が学生に直接関与したのは、質問事項の作文のアドバイスとワープロの使い方指導のみだったが、学生達は実に積極的に生き生きとした表情で取り組んでいた。本人達も自信がついたと満足げな感想を述べてくれ、実際、彼らの日本語が一段むけたようにも感じられたのだ。

天理教語学院は、日本語を学ぶ留学生だけでなく、英中韓などの外国語を学ぶ日本人学生、さらに翻訳通訳コース、日本語教師を養成する日本語教育コース（いずれも学習期間は1年）の学生が同じ屋根の下で学習している総合的語学教育機関。

## 奈良県天理市

国内編

# あちこち 日本語 ご紹介

海外編

## ドイツ ベルリン市

フンボルト大学（旧ベルリン大学）での日本語教育は1887年に始まり、両世界大戦に因る短い中断を除くと、内容や目標に関してこの100年の間いろいろと変わりながら発展してきた。

第二次世界大戦後、日本語科はアジア・アフリカ学部の一部となり、大学再開からドイツ統一までの間は、入学が隔年か2、3年おきで学生数も少なかった。しかし、統一後は大学制度上の変化に応じて学生数が急速に増え、現在、総数は180人上っており、その大部分は主専攻が日本語である。

卒業生が英・仏・露などの語学部の卒業生とおなじ言語能力が得られるために、1986年に学部での日本語専攻基礎コースに先立つ一年間の日本語インテンシブ・コース（0年）が導入された。これは週16時間の日本語コースであった。この日本語教育を重視する新しい方針に伴い、それ以前の授業内容の刷新が提案された。この時、それまで使ってきた“テキストを読んで翻訳する方法”に基づく教科書から、学生の口頭コミュニケーション能力を早く発展させ

## 「見知らぬ人と話す」 学生のアンケート調査活動報告

天理教語学院日本語科講師 <sup>ひがし</sup> 東 次成

## ベルリン・フンボルト大学日文学科の日本語初級コース

フンボルト大学講師 ユタ・ボルヒェルト

られるような教科書に変えることが検討された。それは、言語学習に最も有効な順番は聞・話・読・書であるという理論に基づいていた。このプロセスで新しい教科書として「日本語の基礎」が選ばれ、現在、0年には「新日本語の基礎」を使用している。（二学期、各学期15週ずつ）

「日本語の基礎」を使い始めるとすぐに、補助教材作成の必要が出て来た。その主な理由は以下の通りである。

### 1. 学習環境が外国であること

学生が日本語の授業以外に日本語を使うチャンスがほとんどないので、母語で言いたいことがどのくらい日本語で表現できるかを知るために、独文和訳（ドイツ語とのクロス・チェック）の練習が必要である。教室外で日本語を使用する環境がないという欠点を補うために、漢字コース、聴解練習（できるだけ多種多様な教材を用いて）、会話練習などが必要である。

### 2. 学生のほとんどがドイツ人であることから、その多くが“頭”で習い、理論的な詳しい説明を望むこと

ドイツの学校教育では、一般的に暗記・パターンドリルを重視せず、系統的理解に重点を置くので、決まった文章（文型）をただ繰り返すという方法を好まない学生が多い。

### 3. 0年の日本語コースが日文学専攻コース

の入門になっているので、日本文化史・思想史に関連したテキストや文献の読解能力も養成しなければならないこと

以上を考慮し、次の補助教材を作成した。

1. 漢字コース（週20字）
  - ・追加語彙リスト
  - ・シラバスに合わせた他の視聴覚教材使用
2. 文法の説明（ドイツ語による）
  - ・応用・チェックのための独文和訳の練習
3. 和文独訳コース（第二学期）

これらの補助教材を用いてコースの改善を試みてきた結果、学生は、最初の2週間の導入の後、この教科書と授業方法に慣れ、次第に関心を深めるようである。ドイツ語による文法説明は、学生の理解に非常に役立っており、予習、復習に活用している。

一般的に、ドイツ語から日本語に訳せる能力を高く評価する傾向が強い。その方が、おそらく“本当に通じる”という安心感が得られるからだと思われる。

第一学期が終わると、学生は予想以上に日本語のコミュニケーション能力が身についたことを自覚し、これは新たな動機づけとなっている。

ヨーロッパ人にとって比較的難しい言語である日本語の学習を、話し言葉と単文から始めることにより、学生は、母語と全く異なった文型、文法カテゴリーなどをより早く身につけ、言語感覚を発展させている。

# アイディアの宝船

★今回のテーマ★  
カセットテープ

「こんなにあった」  
教材の使い方あれこれ

最終回

「しんにほんごのきそ」  
シリーズの教材の  
いろいろな使い方を  
紹介します。

石塚京子

「しんにほんごのきそ」の各課の終わりに、その課を総合的に復習するための問題があり、特に1、2番は聞き取りの力を強化する練習になっています。カセットテープを用いて、短い質問に答える問題と、短い会話のやりとりを聞いて内容の要点を把握する問題ですが、学習者のレベルと目的に合わせた聞く力を高めるために、2番の短い会話のやりとりを聞く問題から、いくつかのタスクシートを作り、バリエーションを増やしました。今回は、第5課を例として、そのタスクシートをご紹介します。

## 第5課 問題2 会話スクリプト

- 例) A: アリさん、どこへ行きますか。 B: ス - パ - へ行きます。  
A: 誰と行きますか。 B: 一人で行きます。
- 1) A: ラオさん、あした、どこへ行きますか。 B: どこも行きません。ナロンさんは?  
A: 私は、デパ - トへ行きます。
- 2) A: あした、大阪へ行きます。 B: そうですか。新幹線で行きますか。  
A: いいえ、飛行機で行きます。
- 3) A: 日曜日、どこへ行きましたか。 B: 銀座へ行きました。  
A: 一人で行きましたか。 B: いいえ、リ - さんと行きました。
- 4) A: いつ、日本へ来ましたか。 B: 9月に来ました。  
A: 9月何日ですか。 B: 16日です。
- 5) A: ラオさんは、おいくつですか。 B: 25歳です。  
A: 誕生日は何月何日ですか。 B: 4月10日です。



			4			
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## 1. 教師が読み上げる問題に対し、×を付ける

\*文字は一切見せずに全て音声で行い、集中力を高め、一文ごとの把握ではなく、会話のまとまりを把握する力を養うことを目的としている

### タスクシート

か×を書きなさい。

- 例)
- 1)
  - 2)
  - 3)
  - 4)
  - 5)

学習者はテープの会話を聞いた後、教師が読み上げる問題に対し×をタスクシートに書き込む。1) から5) まで解答させてから、フィードバックを行う。

### 問題(教師が読み上げる)

- 例) アリさんは、一人でデパ - トへ行きます。(×)  
アリさんは、友達とス - パ - へ行きます。(×)
- 1) ラオさんは、きのう、どこへも行きませんでした。(×)  
ナロンさんは、あした、デパ - トへ行きます。( )
  - 2) あした、大阪へ行きます。( )  
新幹線で大阪へ行きます。(×)
  - 3) 日曜日、一人で銀座へ行きました。(×)  
月曜日、リーさんと銀座へ行きます。(×)
  - 4) 9月16日に日本へ行きます。(×)  
9月16日に日本へ来ました。( )
  - 5) ラオさんの誕生日は、4月10日です。( )  
ラオさんは、15歳です。(×)

## 2. か×を付け、×の場合は訂正をする

\* 内容把握と、自己訂正能力を身に付けることを目的としている

### タスクシート

( )に か×を書きなさい。×の時は、<sup>とき</sup>正しく<sup>ただ</sup>直しなさい。

例) ( ) アリさんは、きのう、ひとりでス - パ - へ  
い  
行きました。

1) ( ) ラオさんは、あした、どこへも<sup>い</sup>行きません。

2) ( ) あした、<sup>しんかんせん</sup>新幹線で、<sup>おおさか</sup>大阪へ行きます。

3) ( ) <sup>げつようび</sup>月曜日、リ - さんと<sup>ぎんざ</sup>銀座へ行きました。

4) ( ) 9月16日に日本へ来ました。

5) ( ) ラオさんの<sup>たんじょうび</sup>誕生日は4月25日です。

### 回答

例) ( × ) アリさんは、きのう、ひとりでス - パ - へ  
行きました。

1) ( ) ラオさんは、あした、どこへも行きません。

2) ( × ) あした、新幹線で、大阪へ行きます。

3) ( × ) 月曜日、リ - さんと銀座へ行きました。

4) ( ) 9月16日に日本へ来ました。

5) ( × ) ラオさんの誕生日は4月25日です。

## 3. 文章を完成させる

\* 内容把握と、ノ - ト・テイキングの練習を目的としている

### タスクシート

テ - プをきいて、\_\_\_\_\_ にことばを書きなさい。

例) アリさんは、\_\_\_\_\_ へ\_\_\_\_\_。

1) ラオさんは、あした、\_\_\_\_\_ へ\_\_\_\_\_。

2) あした、\_\_\_\_\_ で\_\_\_\_\_ へ\_\_\_\_\_。

3) \_\_\_\_\_ <sup>ようび</sup>曜日、\_\_\_\_\_ へ\_\_\_\_\_。

4) \_\_\_\_\_ <sup>がつ</sup>月 \_\_\_\_\_ <sup>にち</sup>日に、日本 \_\_\_\_\_ <sup>にほん</sup>\_\_\_\_\_。

5) ラオさんは \_\_\_\_\_ <sup>さい</sup>歳です。

ラオさんの \_\_\_\_\_ は、 \_\_\_\_\_ <sup>がつ</sup>月 \_\_\_\_\_ <sup>か</sup>日です。

### 回答

例) アリさんは、一人で スーパーへ行きます。

1) ラオさんは、あしたどこへも行きません。

2) あした、飛行機で大阪へ行きます。

3) 日曜日、リーさんと 銀座へ行きました。

4) 9月16日に、日本へ来ました。

5) ラオさんは25歳です。

ラオさんの誕生日は、4月10日です。

以上のように一つの会話からいろいろな聴解練習ができますので、学習者のレベルと目的によって使い分けてみては、いかがでしょうか。

「しんにほんごのきそ」シリ - ズの教材の使い方を4回に分けて、新絵教材、会話・練習Cイラストシート、クラス活動集、カセットテープをそれぞれ紹介してきました。教材をそのまま使っても教えることは十分できますが、小さな工夫やアイデアで、教える側も習う側も一層楽しくなることは間違いありません。このコラムで今までに紹介したものは一例であり、全ての学習者・学習環境で利用できる適当なものかどうかは計り知れませんが、学習者が楽しく、自然に発話ができ、社会生活の中で運用する力を導くことを第一に考えたつもりです。読者の方は、どのように感じられたでしょうか。この4回のシリ - ズに対するご意見、ご感想を是非お聞かせください。



### 今回ご紹介した教材

『新日本語の基礎カセットテープ』 8巻セット 定価(本体16,000円+税)

『新日本語の基礎 カセットテープ』 8巻セット 定価(本体16,505円+税)



# 挑戦! 初級で作文

最終回

日本海外技術者研修協会 門脇 薫  
(大阪府立大学)  
 神戸YMCA学園専門学校 西馬 薫  
(大阪府立大学)



## 1. 初級における談話展開を考慮したワークブック例

第1回(1997.4月創刊号)では「自己紹介」、第2回(7月発行第2号)では「家族」、第3回(10月発行第3号)では「週末」をテーマに作成したワークブックを紹介しました。初級段階では談話の展開を大まかな3つの枠「全体に関する記述 個別の事柄 全体に関する記述」としてとらえ、テーマごとに「フローチャート」と「モデル文」を通して、談話の展開パターンを学習者に意識させることを意図しています。

今回は、その3つの枠の談話展開を応用した「手紙文」(始めのあいさつ 具体的内容 終わりのあいさつ)をご紹介します。ここでは、特に「はがき」を書いてみます。はがきの場合書く量も短くてすむので、初めて「手紙文」を書く初級学習者にとっては、書きやすいと思います。以下に、「はがき1 旅行先での手紙」、「はがき2 簡単なお礼状」、「はがき3 友達への近況報告」の例を挙げます。

## 2. 作文教材例..... はがき

### はがき1 旅行先での手紙

#### 【フローチャート】

こんにちはお元気ですか。  
 (始めのあいさつ)

旅行先での様子

(具体的な内容1) = 波線部分

(それについての  
 コメント/感想1) = 下線部分

(具体的な内容2) = 波線部分

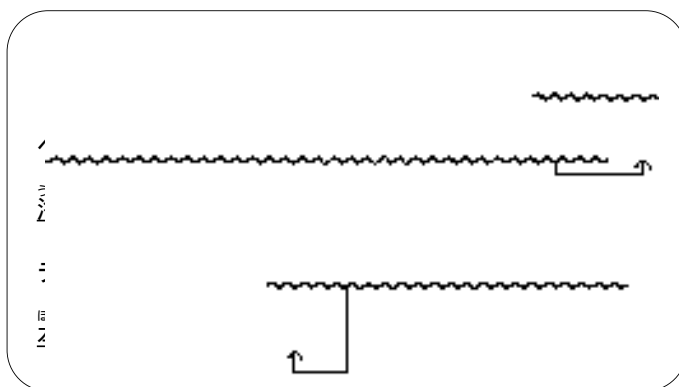
(それについての  
 コメント/感想2) = 下線部分

さようなら  
 月 日

名前

#### 【モデル文】

こんにちは。お元気ですか。



それでは、また、さようなら。

10月15日

ひろしま  
 広島にて リー

はがき2 簡単なお礼状の書き方

(横書き)

50

5 5 8 0 0 2 1

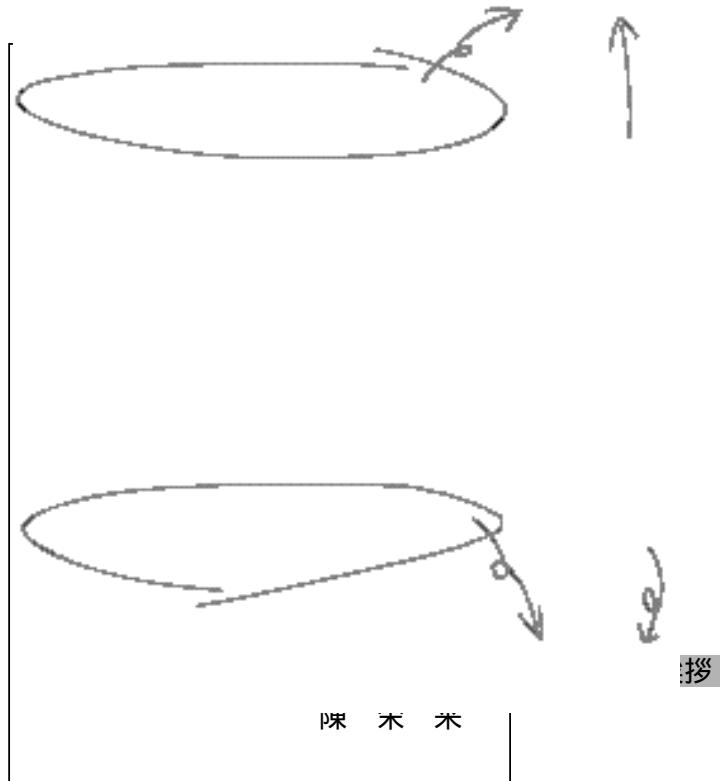
大阪府大阪市住吉区浅香 1-7-5

門 脇 薫 様

家族全員あての場合の書き方

大阪府箕面市粟生谷東 8-1-1  
陳 栄 来

5 6 5 0 8 6 2



はがき3 友達への近況報告

(縦書き)

50

6 5 0 0 0 0 1

神戸市中央区加納町二の七の四

西馬 かおる 様

大阪市住吉区浅香一の七の五  
ウイニ

5 5 8 0 0 2 1

はじめの挨拶

毎日暑いですが、お元気ですか。  
は先週キャンプに行きました。川のそばでバ  
キューをしたり、泳いだりしました。涼しくてよ  
かったですよ。今度、一緒に行きませんか。連絡  
待っています。  
れじゃ、体に気をつけて。さようなら。  
月二十五日  
ウイニ

の挨拶

ワ  
クブックの「書きましよう」は、実際にはがきに書く前の下  
書きのため、ワクシトは実物大のはがきの様式になっていま  
す。下書きの段階で文法や語彙などを教師がチェックしてから、  
実際にはがきに書かせてみてください。



4回シリーズで「談話展開を考慮した作文ワークブック」をご紹介いたしました。4回でご紹介したのは教材全部ではなく初級前半部分に限られました。今後、中級につなげていく初級後半部分を更に充実させていくつもりです。尚、モニターとしてワークブックを試行して頂いた日本語教育機関の先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



# ほん BOOKS

『しんにほんごのきそ』  
シリーズ最新刊

新日本語の基礎  
分冊 ビルマ語訳  
定価(1,505円+税) 3月刊行予定

新日本語の基礎  
分冊 ビルマ語訳  
定価(1,553円+税) 3月刊行予定

新日本語の基礎  
文法解説書 ベトナム語版  
定価(1,650円+税)

新日本語の基礎  
文法解説書 ベトナム語版  
定価(1,748円+税) 2月刊行予定

中上級の総合教材

日本社会探検  
架谷真知子・佐藤恵美・二村直美 著  
定価(未定) 3月刊行予定

使いやすいA5サイズ

携帯用新絵教材  
(財)海外技術者研修協会 編  
定価(5,600円+税) 白黒版320枚

新日本語の基礎 準拠の携帯用絵教材が  
できました。プライベートレッスンや少人  
数のクラスに最適です。文型の導入を容易  
にし、類義語の使い分け、同音異義語の区  
別などがスムーズに理解できるように工夫  
されています。

# セミナー SEMINARS



## 実践日本語教授法講座 98年4月コース

新日本語の基礎シリーズは学習者にとってわかりやすく、教師にとって教えやすい初級日本語に最適のテキストです。シリーズになっている教材をいかに効果的に使うかが教えるときの重要なポイントになります。この講座では模擬授業を中心にすえ、新日本語の基礎シリーズの教え方の実際を学ぶことができます。

【新日本語の基礎皂クラス】  
毎週月曜日 14時～16時 全6回 (4/6・4/13・4/20・4/27・5/11・5/18)

【新日本語の基礎 クラス】  
毎週火曜日 14時～16時 全6回 (4/7・4/14・4/21・4/28・5/12・5/19)

受講料 27,000円 入学金 10,000円 会場 小社教室(水道橋駅徒歩5分)  
定員 20名(5名以上開講) 申込締切 3月27日

詳細については資料をご請求ください。 次回は 98年6月開講予定です。  
出張講座も承ります。

## 『みんなの日本語』教科書説明会

『新日本語の基礎』シリーズの姉妹版として『みんなの日本語』シリーズが3月に発行されます。教科書の内容や『新基礎』との違いを把握していただくために、大阪・東京・仙台で無料説明会を行います。詳しくはご案内のチラシをご覧ください。ご参加お待ちしております。(4月に横浜でも開催する予定ですが会場など未定ですので、お電話で資料をご請求ください)

みんなの日本語 初級  
本冊  
定価(2,500円+税)  
翻訳・文法解説 英語版  
定価(2,000円+税)  
カセット(4巻)  
予価(6,000円+税)

# お便り LETTERS

『Ja-Net』読者の皆様に ニュージーランドより新年のご挨拶を申し上げます。『Ja-Net』3号でニュージーランドの“日本語”をご紹介させていただきましたが読者の皆様から色々なお問い合わせをいただきました。ありがとうございました。その後Y.E.S.KIWI INTERNATIONALはKIWI ENGLISH ACADEMY及びAUCKLAND COLLEGE OF EDUCATION(ニュージーランドで最大の国立教員養成専門学校)との共同企画で日本語教授法講座(6カ月)を2

月と7月に開講することになりました。尚、前号でお知らせしましたChristchurch Polytechnicとの講座は都合により中止になりました。

詳しくは下記住所のY.E.S.KIWI INTERNATIONAL JAPAN迄お問い合わせください。

〒745-0074  
山口県徳山市今住町3-3 福谷ビル3F  
TEL 0834-32-2870  
FAX 0834-21-8003

Y.E.S.KIWI INTERNATIONAL NZ 代表  
中村攻 (Christchurch, New Zealand)

# お知らせ INFORMATION

皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等をお待ちしております。採用させていただいた方にはオリジナルテレフオンカードを差し上げます。

このニュースレターをご希望の方は、お名前、ご住所、所属をファックス等で企画広報課までお知らせください。毎月無料でお届けします。

『Ja-Net』第5号は4月下旬発行予定です。



# Ja-Net ネット 4号

スリーエーネットワークという社は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという主旨をシンボライズしています。

1998年1月25日発行  
発行人 小川巖  
発行所 (株)スリーエーネットワーク  
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 松栄ビル  
企画広報課(Ja-Net 編集室) 電話 03-3292-5752 FAX 03-3292-5754 営業課  
電話 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195  
http://www.at-m.or.jp/~3ac E-mail 3ac@mail.at-m.or.jp  
印刷 (株)シグマ  
©1997 by 3A Corporation Printed in Japan(禁無断転載)